（様式2）

令和7年度　自己評価書及び学校関係者評価書

令和8年2月20日
札幌市立月寒中学校

1 学校経営の基本方針

・子ども達が安心して学べる学校づくり
・教職員の協働体制の確立と組織的取り組みの強化
・学習における基礎、基本の定着
・望ましい生活習慣の定着
・生命尊重の教育や人間尊重の教育を中心とした心の教育の充実

2 本年度の教育推進の重点

・教育課程の充実と研修の推進
・生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける授業の実践
・心に響く対話を大事にした生徒指導
・特別支援教育の充実
・家庭、地域社会及び関係諸機関との連携

3 自己評価結果　A:3.5以上　B:3.4～2.5　C:2.4以下

※ ・そう思う…4 ・ややそう思う…3 ・あまりそう思わない…2 ・そう思わない…1 で計算した平均値
・・・昨年度との比較（ ⇧0.2以上上昇 ↗0.1上昇 ↘0.1下降 ⇩0.2以上下降 ）

分野		評価項目	自己評価 達成状況	自己評価 改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	学校関係者評価 改善策の適切さ
学校運営	1	学校教育目標「豊かな人間性の形成をめざして」の実現に向けて、教職員が共通理解を図りつつ、教育活動を推進している。	⇧ A 3.5	今後も継続して毎日の実践を通して、全教員が理解を深めながら指導に取り組むようにする。	A	A
	2	学校の様子や進路の情報（主に3年生）を、各種たより等を通して積極的に各家庭に知らせている。	⇧ A 3.8	今後も学校だより・進路だより等を通して、的確な情報を提供する。また、家庭との連絡手段のデジタル化を推進し、各種お知らせが確実に家庭にわたるように努める。	A	A
	3	授業時数の確保は十分に行われている。	↗ A 3.6	今後も標準授業時数を確保を目指すとともに、教育課程の見直しを随時行い、「分かる・できる・楽しい授業」づくりに努めたい。	A	A
	4	学校公開日や行事公開、HP公開等、地域に開かれた学校となるよう、取り組んでいる。	A 3.7	ＨＰに加えて、学校保護者間連絡システム「すぐーる」を活用しながら、情報の発信に今後も努めていきたい。今後も学校祭などの行事や授業の学校公開を積極的に実施する。	A	A
学校関係者評価者による意見		・学校公開日などで来校した際にも、元気にあいさつをしてくれる姿が見られ、嬉しく感じている。今後も、豊かな人間性を育てる教育を引き続き進めていただきたい。				
教科指導（学習面）	5	生徒の理解度に気を配り、分かりやすい授業づくりに努めている。	⇧ A 3.6	「学ぶ意欲=主体的に学習に取り組む態度」「学んだ力＝基礎的・基本的な知識及び技能」「活かす力＝思考力・判断力・表現力等」の学力の３要素をバランスよく育む教育の充実を目指す。	A	A
	6	観点「C」や評定「1」「2」の生徒に補充的指導が十分に行われている。	⇧ B 3.0	生徒の学習状況把握に努め、学びのサポーターを有効に活用しながら指導内容や指導方法の工夫改善を進める。また、テスト後には生徒自身の学習改善につなげられるような指導を行っていく。合わせて、別室やフリースクールなどで学習する生徒について、機関と連携しながら評価できる体制を構築したい。	A	A
	7	自己管理能力の向上を図る指導が十分に行われている。	⇧ B 3.2	引き続きスケジュール帳などの活用方法に関する指導の充実を図る。また、家庭と連携しながら、生徒が先を見通して、計画的に学習に取り組むように進めていきたい。	A	A
	8	授業やその他の場面で，道徳的指導が十分に行われている。	⇧ A 3.7	道徳科の実施に当たっては考え、議論する道徳の実現を目指す。また、行事や日常活動の中で適宜、道徳的指導を行う。また、外部講師の活用を積極的に進め、学年道徳などの実施を進める。	A	A
学校関係者評価者による意見		・教室に入りづらい生徒に対しても、手厚くサポートをしていただいていると感じる。オンラインでの授業配信などを継続していただきたい。				

分野		評価項目	自己評価 達成状況	自己評価 改善の方策	学校関係者評価 自己評価の適切さ	学校関係者評価 改善策の適切さ
生徒指導（生活面）	9	生徒はあいさつを含めた公共のマナーや、校内外でのきまりを守っている。	B 3.1	あいさつについては今後も本校の生活向上の基盤として取り組むとともに、登下校や校外生活、部活動などについても、常に指導していきたい。	A	A
	10	教職員は生徒指導に係わる情報交流を密にし、その共有に努めている。	A 3.7	より効果的な指導につなげるために、校務支援システムなどを活用した情報交流を確実に行い、共通理解を図る中で指導に当たる。	A	A
	11	教職員は教育相談を通して、生徒の相談事や悩み等によく応じている。	A 3.8	一昨年度から実施している「シャボテンログ」を用いて、毎日の生徒の状況把握に努め、生徒が相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける。合わせて、年２回の教育相談期間を次年度も設定し、相談活動の充実を図る。	A	A
	12	教職員はいじめやトラブルへの対応など、生徒の集団生活の意識向上に努めている。	A 3.7	いじめ調査や悩み調査を有効に活用し、互いを尊重し合う環境づくりを進め、いじめを決して許さない姿勢を明確にする。また、発生したいじめ事案については、いじめ対策委員会を中心に、関係機関とも連携を取りながら、状況に応じた丁寧な対応を今後も継続していく。	A	A
学校関係者評価者による意見		・アンケートをとるだけではなく、すぐにサポートやフォローに動いていただいている。また、先生方が話しやすい雰囲気を作ってくださっているので、生徒も相談しやすいと感じていると思われる。				
特別活動面	13	学級活動や生徒会活動において、生徒の取り組みが充実している。	A 3.7	活動の時間を確保して生徒の話し合い活動や、話し合いで決まったことを協力して実践したりする活動を行っていくことで、活動の充実を図る。	A	A
	14	学校祭や体育大会などの学校行事は充実している。	A 3.7	学校祭に学年合唱を発表する場を設定し、また運動機会充実を目指し、学年の体育大会を実施した。学校行事の実施については、行事のねらいを精査しながら、生徒の自主的、実践的な活動が助長されるような取組を模索していく。	A	A
	15	部活動が生徒にとって充実した活動になっている。	A 3.6	全校体制で取り組む。部活動の地域移行の情勢を見ながら、部活動指導員の活用など、本校の状況にあった体制を模索していきたい。今後も部活動を通して、社会性を身に付けるための指導を行っていく。	A	A
	16	校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	B 3.4	清掃強化週間などによる啓発活動を取り入れ、環境美化の習慣を意識づけていく。	A	A
学校関係者評価者による意見		・学校行事についても、家庭で楽しかったと話をしてくれることが多かった。今後も生徒が充実感を得られるような学校行事の企画、運営をお願いしたい。				
教職員	17	評価規準の設定など、適切な評価・評定が行われている。	A 3.6	年度当初に評価・評定研修会を行い、３観点での評価規準や評定方法に関する研修を実施した。評価に関する実践事例を蓄積して教員間で共有していく。評価結果についての検討を行う。	A	A
	18	T・Tは、その趣旨に沿って効果的に行われている。	B 3.3	それぞれの生徒の理解や習熟の程度に応じてつまづきを克服させたり、課題にじっくり取り組ませたりするなどのきめ細かな指導を行う。	A	A
	19	スクールカウンセラー・学びのサポーターとの連携や相談支援パートナーの活用などにより、登校が難しい状況にある生徒や学びの支援を必要とする生徒への対応が十分に行われている。	A 3.5	「別室登校」など、個々の状況に応じた学習支援や相談支援を行うよう努める。校内学びの支援委員会を中心に、支援の手立てや役割を明確にし、定期的に情報交流を行う。	A	A
	20	コンピューターなどの機器が効果的に活用されている。	A 3.7	日常の授業や生徒会活動などにおいても、１人１台端末を活用した意見交流などの活用が進んでいる。ICT機器やデジタル教材等の整備を更に推進し、研修の機会を利用して、教員のICT活用指導力の向上を図る。	A	A
学校関係者評価者による意見		・登校が難しい状況にある生徒に対しても、定期的に連絡をとるなどのサポートを先生方にしていただき感謝しています。先生方も忙しく、大変だとは思いますが、引き続きよろしくお願いしたい。				